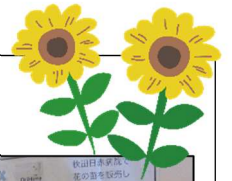


「かがやきの丘 ボランティア講座」が開催されました

令和4年7月28日（木）・29日（金）の両日、かがやきの丘3校の主催により、視覚障害児（者）・聴覚障害児（者）・肢体不自由児（者）の支援に関するボランティア講座を3年ぶりに開催しました。

実際にボランティア活動に取り組んでいる方の講演を聞き、また視覚障害・聴覚障害・肢体不自由のある障害児（者）へのかかわり方について、講話やVTR視聴、疑似体験等を通して理解を深めました。



開講式の様子



猛暑の中、学生及び一般の方々12名が参加されました。

展示コーナー

かがやきの丘3校で使用されている教材・教具やさまざまな書籍を展示し、障害への理解を深めていただきました。写真は、秋田きらり支援学校で遠隔授業に利用しているICT機器と、分身ロボット（OriHime）です。



講演会「あなたに知らせたいボランティアの世界」

ボランティア登録者である 船木 純 氏が、「ふるさと秋田に貢献したい」という熱意で行っているバラエティ豊かな活動を紹介してくださいました。「勇気をもってボランティア活動の一步を踏み出してほしい」と、映像や実演（介護施設慰問のために覚えた西馬音内盆踊り）を交えて分かりやすくお話しいただきました。



視覚支援学校「視覚障害児・者の理解とかかわり方」

講座では「見えない・見えにくい方への介助について」スライドを見ながら研修しました。見えにくさには、視野が狭い人やまぶしさがある人の見え方など人それぞれ違うことを、シミュレーション映像で確認しました。

実技では、アイマスクを使用して、見えにくい人を誘導する「手引き」について体験しました。誘導される役とガイド役を交互に体験することで、相手を気遣うことの大切さを感じました。



聴覚支援学校「聴覚障害児・者の理解とかかわり方」

雑音が出るヘッドホンを使用して、難聴の人の気持ちを理解する体験を行いました。周りの人が何を話しているのか分からないという状況で、非常に不安な気持ちになり疎外感を感じることや、文字やジェスチャーで教えてもらおうと安心して嬉しい気持ちになるということを実感しました。手話研修では、挨拶の手話や、自分の名前を指文字で表現する練習に、熱心に取り組んでいました。



秋田きらい支援学校「肢体不自由児・者の理解とかかわり方」

「車いす介助体験」では、段差や坂道などで、車いすに乗ったり、押したりする体験をしました。介助の際は「声をかける」「安全に気をつける」などの大切さを学びました。

「足の不自由な方の介助体験」では、平地や階段で足の不自由な方を介助する際の基本的な方法を学びました。

実際に体験することで大変さを実感し、「町中で声をかけてみよう」という気持ちにつながりました。



<参加者の感想紹介>

- 体験活動がとても良かったです。実際に経験することで自分ができることは何かを考えることができました。
- どの講座でも相手のことを思いやるということが共通していて、それを行動に移すことが大切だということに改めて思いました。自分も困っている人やそういう行動をしている人がいたら勇気を出して声を掛けていきたいです。
- 全ての講座がとても刺激が大きく、自分にできることは進んで取り組みたいという気持ちになりました。実際に体験をしてみて、不自由な側の気持ちも分かってとても身になる講座になりました。
- 実際にアイマスクをしたりヘッドフォンをつけたりしてみて、障がいを持っている方の不安さや怖さが分かりました。これからどこかで障がいを持っている人を見かけたら迷わず声を掛け、手伝いたいと思いました。また、今後ボランティアをする機会があったらこの2日間の経験を生かしていきたいです。
- 視覚障害の誘導がすごく勉強になりました。車椅子、足の不自由な方の介助の仕方も自分がやってきたのが相手にどれだけ不安にさせていたのかということが分かりました。とても勉強になりました。

ボランティア登録について

かがやきの丘3校（視覚支援学校、聴覚支援学校、秋田きらい支援学校）では、学校支援ボランティアを募集しています。学習発表会等の行事でのサポートなど、幅広く活躍していただいています。今年度もボランティアの皆様のお力を借りて、充実した教育活動にしていくことができると考えています。

ボランティアを希望される方は、学校ホームページ内のボランティアカレンダーをご確認の上、ご連絡をお願いします。ご協力よろしく申し上げます。